

入間市納税貯蓄組合長賞

だれかの笑顔のために

藤沢中学校 三年 郷家 梓

「税金なんてなくなればいいのに。百円の商品買つたら十円も取られる。そのお金で安いお菓子買えるよ。」そう、今までの私は税金なんてなくなればいいのにと思つていきました。そして私はお菓子代を削つてくる税に対しての不満から興味を持ち、調べてみることにしたのです。要らない理由が分かれれば、そのお金をお菓子代に使えると思ったのです。しかし、実際に調べてみると一言で「なくなればいい」と言えるものではないことが分かりました。

税には、私たちに身近な消費税、大人が払っている所得税、固定資産税などとその他にもあり、それらは教育費や、年金などの社会保障、警察や消防など私たちの身の回りの多くのものに使われていることがわかりました。また、少子高齢化社会において、社会保障の費用が増え、一人にかかる税の負担が多くなってしまうという課題点も分かりました。

税金によつて私たちは、学校で授業が受けられます。病院に気軽に通えます。火事の際に消防が来てくれます。このように税金があることで私たちの生活が豊かになっています。先程の私のくなればいいという発言はどうでしょうか。なくなつたらそれらはどう負担するのでしょうか。お金が払えない家の子は学校に来られるでしょうか。学ぶことができるでしょうか。私には税金は一つの平等な

社会の形に見えました。人と人が支え合って生活していることの象徴にも見えました。税金はあるべきなのではないかと思います。しかし、少子高齢化が進み、社会保障の費用が増え、働き手が減り、一人の税の負担が大きくなっていることも事実です。若者の負担が増えるからといって、税を減らせば年金を頼りに暮らしているお年寄りの生活は苦しくなります。お年寄りを困らせることも働き手に重い税を課せることもしてほしくありません。

私は考えました。今自分に何ができるのか。何を大切にしたら良いか。そこで思いついたのは、初めに自分が不満を持っていた消費税についてです。消費税は物を買つたらついてきます。そのお金で何か買えるかもしれません。しかしそのお金で他の人の暮らしを支えることができるかもしれません。そう考えたら、大袈裟だと思われてしまうかもしれないけど、自分が社会の一員として認められている、誰かの幸せのために貢献できていると思いました。

私は、これからただ払わないといけないから払うのではなく誰かの笑顔のために募金しているのだと考えて、払おうと思います。また、日々、教科書や、公共のものなどを使うときは、感謝の気持ちを常に持ち、大切にしたいです。